

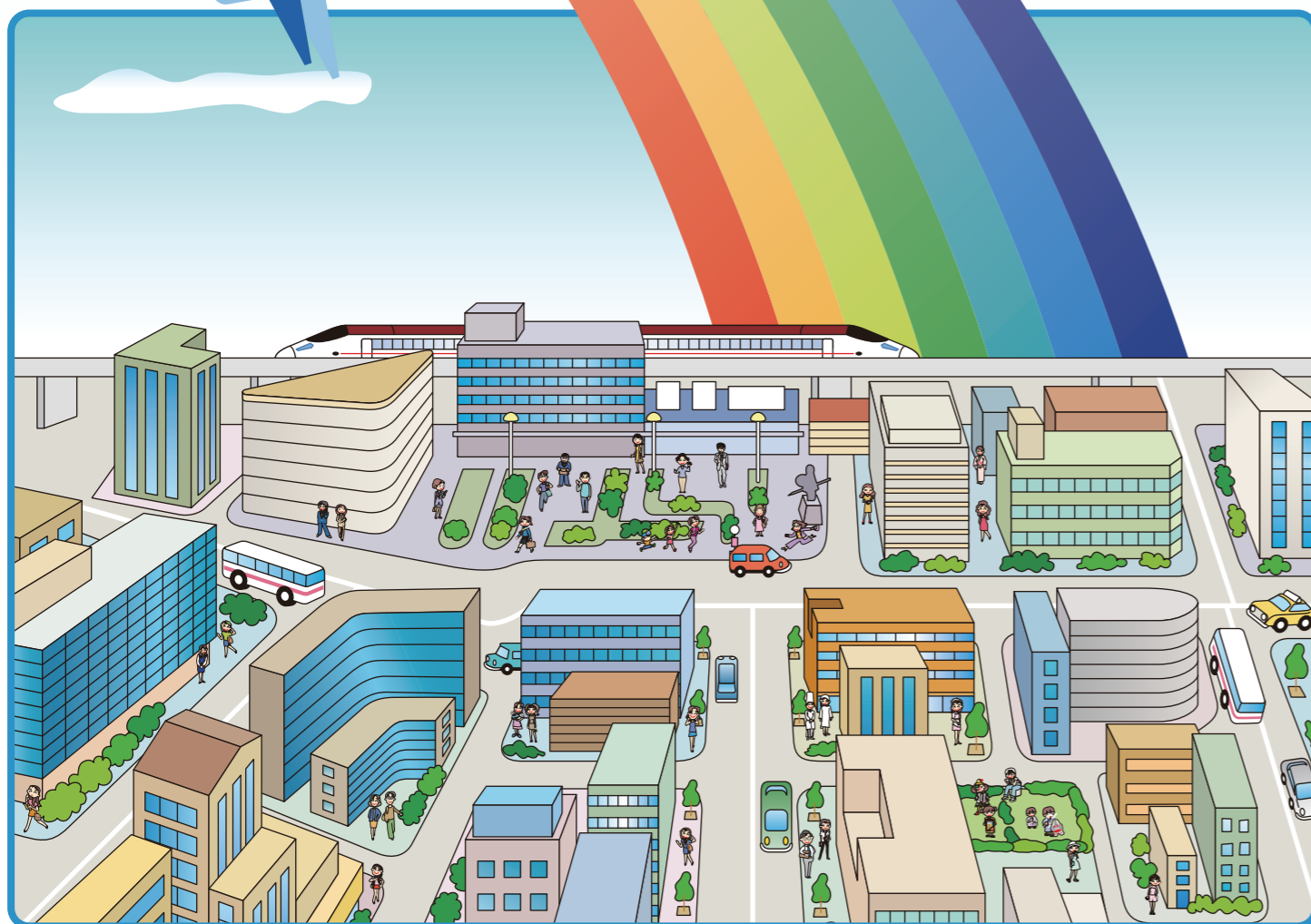
雨水整備

博多駅地区緊急浸水対策事業

レインボープラン

水害に強い
夢のある
まちづくり

博多



福岡市道路下水道局

何がおこったのか!?



博多区を中心に再び浸水
家屋・事業所・地下空間・交通機関などに多大な被害が発生

平成15年7月19日、太宰府市を中心とした御笠川上流域に猛烈な雨が降ったため、19日午前5時頃、御笠川から溢水が始まり、博多区では事業所・家屋など、多大な浸水被害が発生した。

特に博多駅周辺では、地下空間に雨水が流入し、地下鉄が不通になるなど交通機関の混乱を招き、平成11年6月29日に続く、2度目の甚大な被害となった。

平成11年6月29日と
平成15年7月19日の浸水被害状況

区分		H11.6.29	H15.7.19
博多区 の浸水被害	住家		
	床上	275	874
	床下	551	766
	計	826	1,640
	非住家	1	1,152
	合計(戸)	827	2,792
市内全域の浸水被害(戸)		3,478	2,916
博多区の地下施設浸水被害(棟)		81	97

(福岡市市民局防災課資料より)

●博多駅周辺の被害状況



平成11年6月29日



平成15年7月19日



平成15年7月19日博多駅周辺の状況

なぜ大きな被害が!?



- 御笠川的能力をはるかに上回る記録的な豪雨
- 都市化による雨水流出量の増加

平成11年6月29日、御笠川上流域や市内各所で記録的な豪雨(1時間最大雨量79.5mm)となり、浸水被害が発生した。

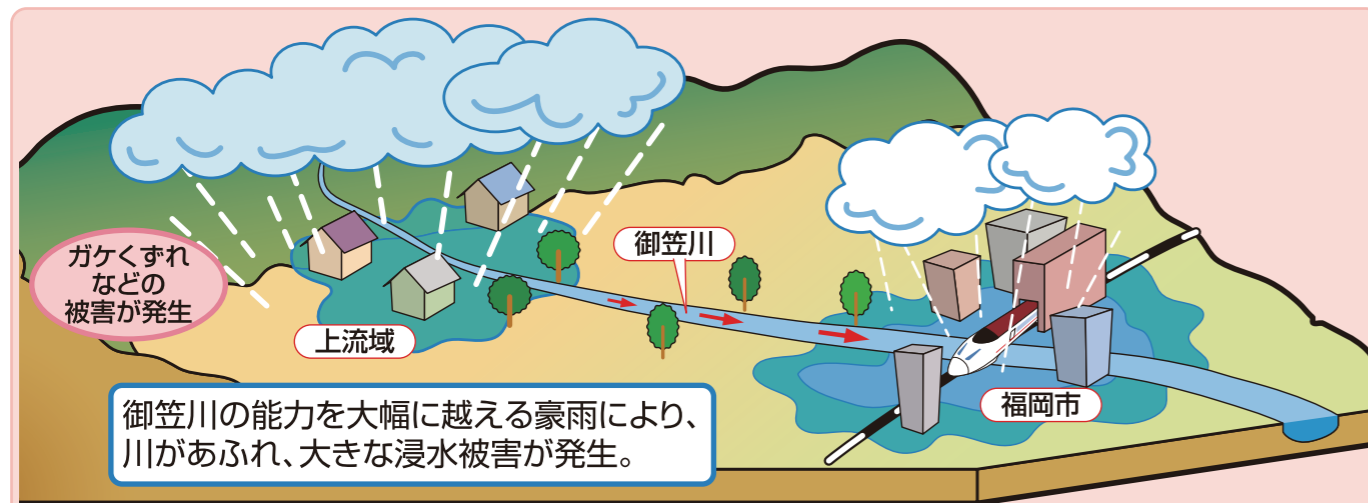
平成15年7月19日、市内各所の雨量は1時間20mm前後であったが、御笠川上流域では、梅雨前線の活発化により猛烈な雨が降った。

特に太宰府市では、1時間最大雨量104.0mmの観測史上最大の記録的な豪雨となり、御笠川的能力をはるかに上回る洪水量となったため、浸水被害が発生した。

また、近年の開発による農地・森林の減少や都市化の進展により、雨水流出量が増加し、浸水被害の大きな要因となっている。

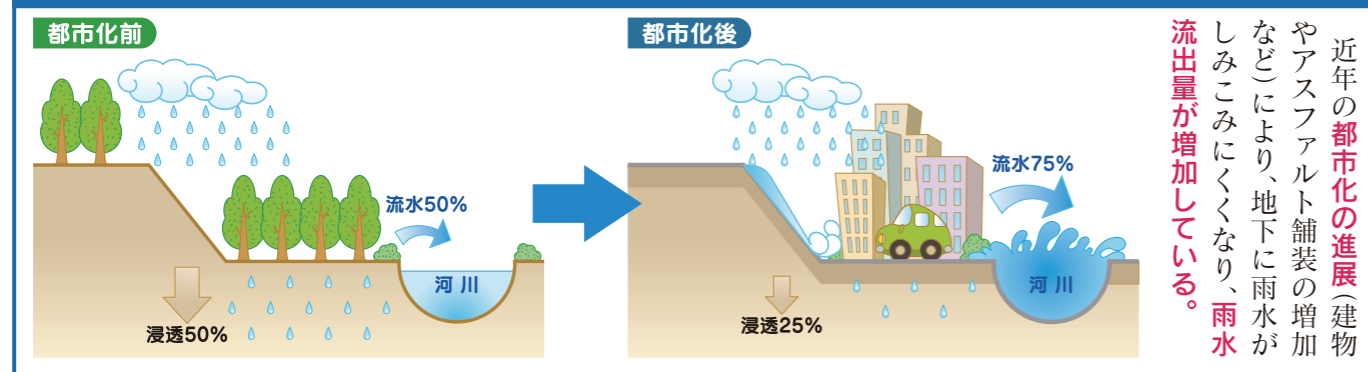
平成11年6月29日の雨量	
太宰府市における 1時間最大雨量	77.0mm
福岡市における 1時間最大雨量	79.5mm
平成15年7月19日の雨量	
太宰府市における 1時間最大雨量	104.0mm
福岡市における 1時間最大雨量	20.0mm

(福岡管区気象台資料より)



河川管理者である福岡県は、御笠川の河川改修を激特事業(河川激甚災害対策特別緊急事業)において、平成15年7月19日の洪水量(890m³/秒)まで整備を進めることにしている。

都市化による雨水流出量の増加



これから、どうするのか?

保水機能を持たせたまちづくり



安全で、安心して生活できる
快適な水環境をめざして

博多駅地区浸水対策室
福岡市中央区天神1丁目8番1号
発行：平成16年4月



福岡市では、博多駅周辺を **三度浸水させ**

このような対策を行います。



都市型水害から、街や地下空間を守ります。

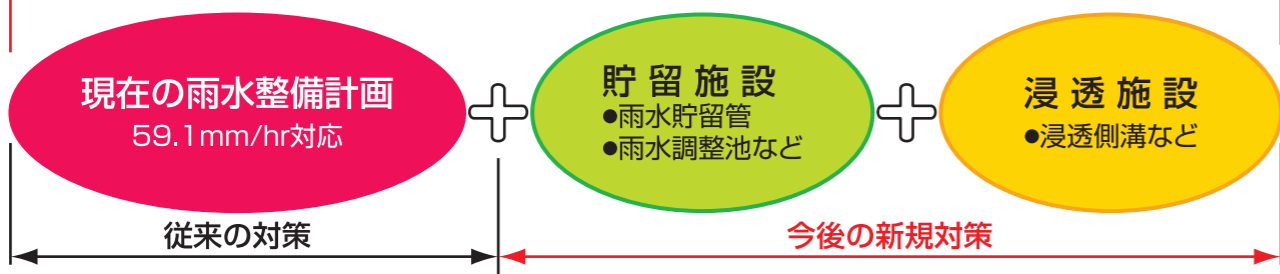
総合的な浸水対策

●雨水整備水準の見直しを行います。

〔時間雨量〕 **59.1mm → 79.5mm**

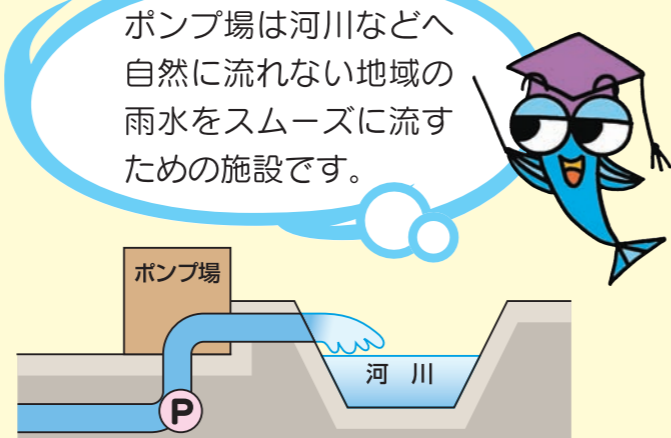
雨水整備水準を時間雨量59.1mm(10年確率)から平成11年6月29日の降雨である時間雨量79.5mmまで引き上げて整備を行います。

《これからの整備目標》79.5mm/時間



【参考】大雨・洪水注意報…1時間雨量30mm以上(バケツをひっくり返したように降る雨)
大雨・洪水警報…1時間雨量50mm以上(滝のように降る雨)

ポンプ場の新設及びポンプ能力の増強



雨水整備計画



施設整備概要

〔貯留管〕	
主な幹線の名称(仮称)	比恵9号幹線・比恵12号幹線・比恵13号幹線
管径(mm)・延長(m)	◎約3000mm～◎5000mm L=約2.0km
〔幹線〕	
主な幹線の名称(仮称)	比恵8号幹線・比恵10号幹線・比恵11号幹線・住吉2号幹線・住吉3号幹線・住吉5号幹線
管径(mm)・延長(m)	◎約1800mm～◎2800mm L=約3.0km

〔山王ポンプ所〕		〔山王公園雨水調整池〕	
ポンプ設備等		貯留量	
約2m ³ /秒・逆流防止ゲート・雨水調整槽		約30,000m ³	
〔ポンプ場〕		形状・能力等	
ポンプ場の名称		計画約14m ³ /秒	
博多駅北ポンプ場(新設)		計画約13m ³ /秒	
博多駅東ポンプ場(増強)	現状約10m ³ /秒 → 計画約13m ³ /秒		
向島ポンプ場(増強)	現状約13m ³ /秒 → 計画約20m ³ /秒		

ないように対策を進めています。

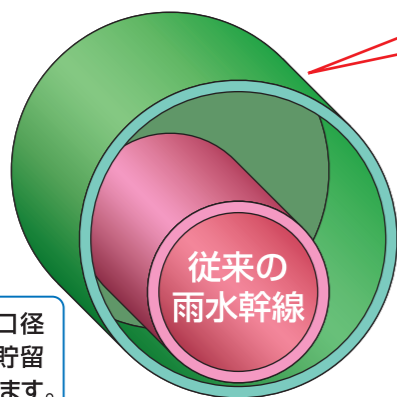
雨水排水機能の強化

工事中の雨水幹線



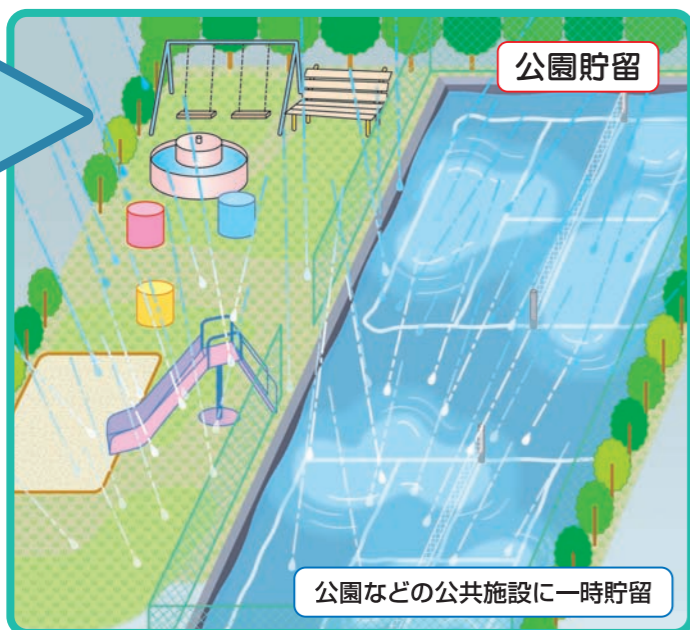
排水計画を見直して、より大きな雨水幹線を建設していきます。

雨水の貯留



新たに整備する
雨水貯留管

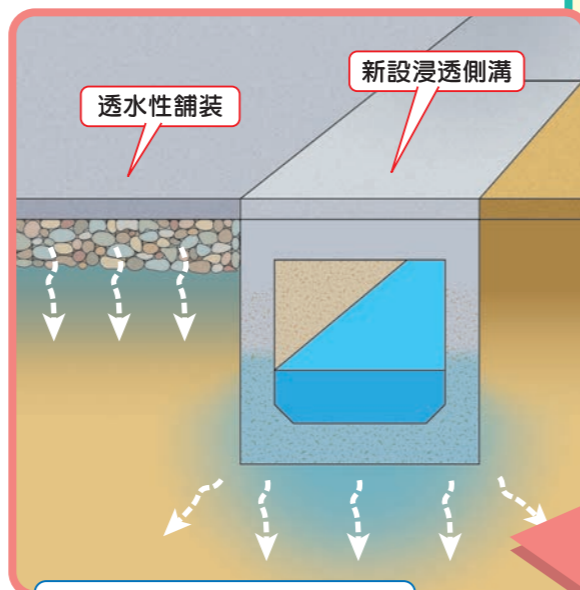
雨水幹線の口径を大きくし、貯留機能を持たせます。



公園貯留

公園などの公共施設に一時貯留

雨水の浸透

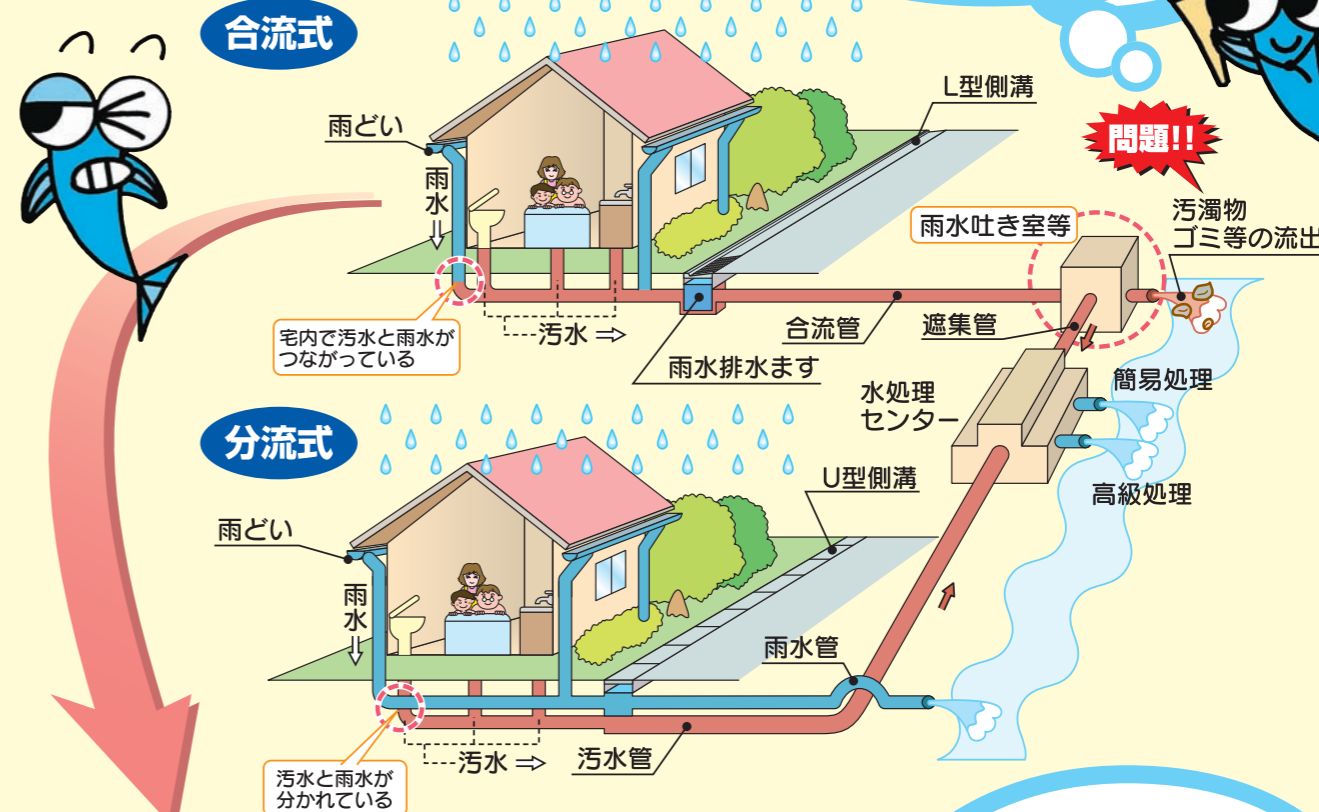


歩道や側溝を浸透タイプに変え保水性の向上を図っていきます。

公共施設などに貯留・浸透施設を導入し、雨水の流出抑制を行っています。

下水道の分流化

博多駅周辺のように、早くから下水道の整備をしてきた地区では、「汚水」と「雨水」を一本の管で流す合流式下水道となっているため、分流化を進めていきます。



新設雨水管や浸透側溝を整備して、分流式下水道に変えていきます。

雨水管と浸透側溝を連携して整備することにより、分流式下水道に改造でき、合流式の問題と浸水問題を総合的に解決していきます。

